

---

# 短歌ごっこ'10.弥生

逸見

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短歌ごっこ・10・弥生

### 【Nコード】

N2796M

### 【作者名】

逸見

### 【あらすじ】

日常を詠んでいます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切ってしまうのはなんかおこがしい

そんな訳で「短歌ごっこ」です

穏やかな

日差し春とは

言えなくも

三寒四温の

四温でしょうか

それだけじゃ

だめだと思う

いつだって

自分にダメ出し

自分にエール

存在す

ただそれだけで

ありがたい

ここに私が

そこに貴方が

ズキだとか

キュンとかチクとか

ドキツとか

アスタリスクな

呟き続く

ムキになり  
画面凝視で  
連打する  
呆れるほどに  
ゲームなワタシ

隙あらば  
うねりとなつて  
打ち寄せる  
さざ波のある  
ちっちゃな海だ

くるまつた  
布団のほのかな  
温かさ  
だんだん解凍  
されてくみたい

「大人なら  
もつと賢く  
なれるでしょ」  
「それができれば  
苦労はしない」

文字にする

勝手気ままな  
つぶやきは  
以上でもなく  
以下でもない

シーンという  
効果音が  
聞こえそう  
車の音さえ  
聞こえぬ夜に

巨木より  
すすきの方が  
強いつて  
書いたあの日を  
忘れていない

出だししか  
思い出せない  
早春賦  
春は名のみ  
風の寒さよ

このまんま  
跡形も無く  
消えたいと

思う日も有り  
人生長いと

閉め忘れ  
音で知らせる  
冷蔵庫  
賞味期限も  
音で知らせて

醜いし  
哀れでもある  
もやもやを  
無くしてしまう  
風よ吹け吹け

節分も  
バレンタインも  
桃の日も  
何とはなしに  
過ぎて行く

髪型を  
変えてみようか  
どうしよか  
思う間が  
ちょっと楽しい

春と冬

日替わりに来る

三月は

毎朝服に

迷ってしまう

毎日

四則が混じる

式のように

もっと上手に

引き算したい

番組の

中で流れた

沢田知可子

少し画面が

滲んで見えた

固い蓋

開かずにその手

ふと止めて

思わず迷う

左か右か

道端に

仲良く並んだ

野の花の

白さに惹かれ

立ち止まり見る

ついつつも

後回しにする

足の爪

寝る前気づく

また切り忘れ

少しだけ

雨が残った

朝の道

細かい雫

傘はいらない

泣きそうな

波が押し寄せ

来る夜は

我慢しようか

泣いてしまおか

朝寝坊

楽しめる日に



なぜ定時

自力で目覚める  
しかもすつきり

苛立ちと

ため息は人くすませる  
輝くことは  
年々大変

昨日見た

冷たい雨に  
なる予報

ちゃんと当たって  
雨の土曜日

訳あつて

チェックのネック  
ストラップ

意外に便利  
意外にかわいい

明日が今日

明日が昨日に  
なっていく

あつという間に  
また春が来る

今日はまた  
寒さの戻る  
冬日和  
芽吹いた新芽も  
北風受けて

久々に  
ストーブ恋しい  
三月の  
朝に続けて  
くしゃみを二つ

大雪と  
桜便りを  
同じ日に  
テレビで見かける  
広いね日本

たまにはと  
冒険をして  
失敗す  
つけると意外に  
派手な口紅

風はまだ  
春のそれとは  
違うけど  
水張る田を見て  
近きを感じる

星ほどの  
言葉の中から  
形無き  
感情あらわす  
ひとこと探す

生まれては  
やがて消え行く  
輪廻の輪  
つながり続ける  
その中の一つ

長く鳴る  
クラクションの  
音響く  
なんて悲しい  
音なんだろう

真矢みきの  
言葉に深く

頷いて

あれほどの効果  
出るを夢見る

揺れながら

行ったり来たり

迷い道

迷路の出口

まだ探してる

物差しの

種類はたくさん

あるでしょう？

共通単位

存在し難い

毎日が

日曜ならば

嬉しいが

そしたら毎日

月曜気分か？

忙しい

一日がいい

頑張っ

生きてる氣がする

自己満だけど

ホットより

ドロリツチに

手が伸びた

好みで感じる

季節の変わり目

まだ少し

肌寒い夜

残量を

気にしながらの

ストーブ点火

あの声は

早く目覚めた

蛙かな

合唱前の

ソロパートなり

充電器

付けて喋る

長ばなし

携帯電話の

意味無くない？

ブーツより  
パンプス目が行く  
出がけ前  
服も徐々に  
脱皮する春

育ち行く  
子らの成長  
見て交わす  
「道理で私も  
年取るはずよね」

何もかも  
忘れ去ろうと  
思わない  
痛みすらも  
証なのだし

上下して  
成立をする  
シーソーの  
微妙なバランス  
楽しむように

ほころびも

咲いてる時も  
散りゆくも  
それぞれ楽しむ  
桜の季節

昼間でも  
照明のいる  
北向きの  
部屋でも感ず  
春の足音

意味も無く  
浮き立つ気持ち  
わき起こる  
春の魔法の  
力は偉大

10円玉  
いくつもいくつも  
投入し  
かけてたあの頃  
長距離電話

切り捨てる  
投げ捨てそして  
割り切って

行く潔さ  
目指す毎日

マールな  
思いを言葉に  
換えること  
楽しくもあり  
難しくもあり

充電を

忘れ朝から

目盛り1

テンション下がる

今日のスタート

強風と

風が交互に

来る海に

浮かぶ小舟

今日も無事

見え隠れ

しながら春は

少しずつ

近づいて来る

あともう少し



天秤に  
かけるとどちらに  
傾くか  
量り得ぬもの  
量ろうとする

真新しい  
ノートの最初の  
一文字は  
ちよつと気取って  
書いてしまう

ささやかな  
抵抗あるいは  
防御策  
ごまめの歯軋り  
その程度だね

弧を描く  
線と線とが  
リンクする  
重なり合って  
く  
円の世界で

触れそうで  
触れはできない  
距離感を  
ただ持余す  
ペリカン一羽

消えて行く  
ものは切ない  
花ならば  
季節が巡れば  
いずれは咲くに

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2796m/>

---

短歌ごっこ'10.弥生

2010年10月17日11時31分発行